

# ～ 高齢者でもできる!集落ぐるみの鳥獣被害対策 ～

(取組主体名) 土倉集落

(所在地) 岩手県気仙郡住田町五葉地区

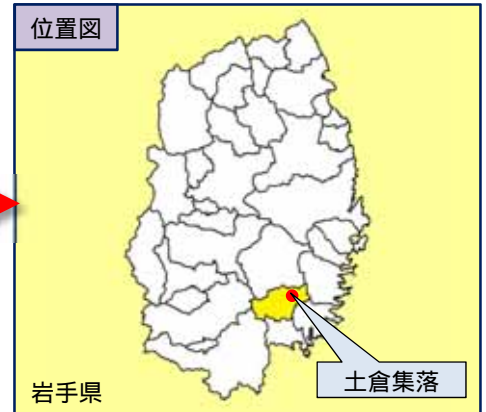
鳥獣被害対策  
取組事例

## 組織のプロフィール

土倉集落は高齢化率が44.6%と町内でも特に高齢化が進んでいる集落である。この地域では、長年、シカやツキノワグマの被害に悩まされており、近年ではハクビシンによる被害も加わっている。

平成22年度の被害金額は2,929千円（被害面積79a）となっている。

位置図



## 1. 取組のきっかけ

土倉集落には幹線道路や気仙川の支流が貫いており、集落全体を防護柵で囲むことが不可能な条件に加え、農家の高齢化により防護柵の管理が徹底されず、農家は農作物被害を受けながら半ば諦めや妥協しながら営農を行ってきた。しかし、平成22年度に被害金額・面積ともに過去最高となった。

過去最高の被害を受け、五葉中農林業振興会長を中心とした農家が、「もうこれ以上被害を増やしたくない。自分たちでなんとかしなければ。」と被害対策への機運が高まった。

## 2. 取組の内容と特徴

活動の第一歩として「被害を及ぼしている相手を知る」ことを目的に、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーである青井俊樹岩手大学教授を講師に迎え、集落で研修会を行い、野生鳥獣の生態や被害対策について学んだ。

集落環境の現状と課題を共有するため、住民同士で集落内の点検を行い、防護柵の破損や耕作地の被害状況、鳥獣の侵入経路や目撃情報などの具体的な情報を地図上に記して「集落点検図」を作成した。これにより、放任果樹の多さなどが改めて認識された。

集落点検の結果を踏まえ、「集落環境対策」、「予防対策」、「捕獲対策」の三項目に整理し、住民同士で具体的な取組について議論した。

議論の末、提案内容が本当に必要か、実行可能かどうかを検討し、具体的な対策を決定するとともに、活動時期や体制などを記載した土倉集落オリジナルの被害防止計画を策定した。

被害防止計画に基づき点検表を作成し、住民を3班に分け当番制で見回り、さらに、猟友会員による捕獲活動を実施した。



集落点検図の作成



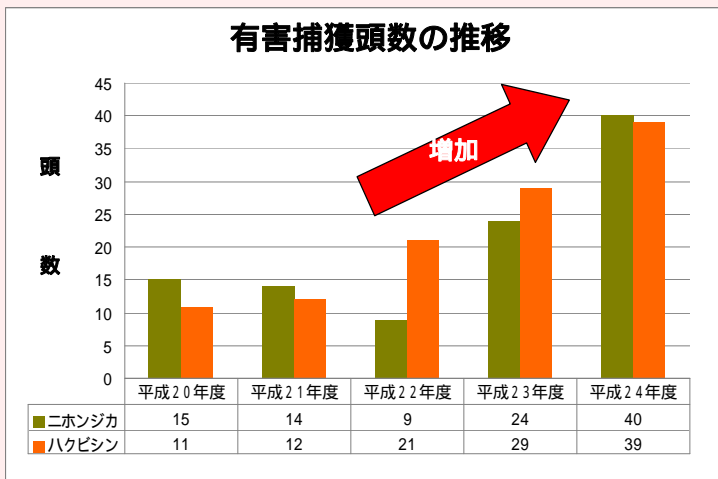
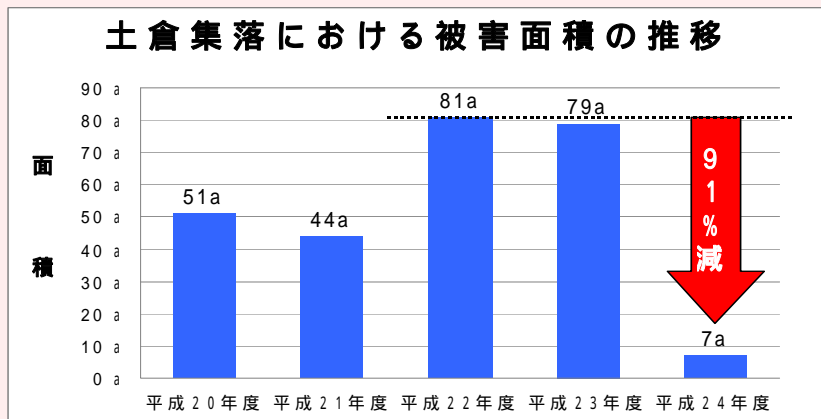
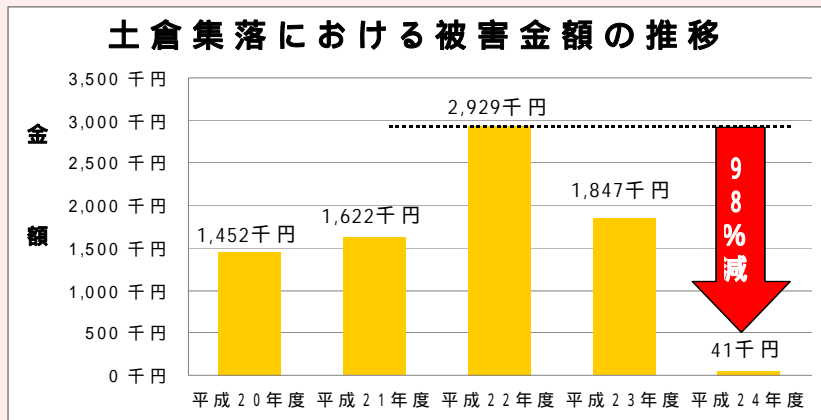
防護網の補修活動

## 3. 課題と今後の展望

地域のシカ防護網等の補修・維持、集落点検の継続。町内外への活動の普及。

# 参考資料 [土倉集落]

## 被害及び捕獲推移



捕獲されたハクビシン

## 営農意欲の向上と女性グループによる地域活性化

集落内の農地に鳥獣が入りにくくなったことから、農家の耕作意欲、被害防止対策への意識が向上した。

特に、大豆は収穫前の食害を受けやすいため作付けが敬遠されていたが、被害が減少したことにより作付けが増加した。

さらに、大豆の作付けが増えたため、地域内の女性が運営する「かあちゃん工房」が豆腐の加工を行うようになり、地域の活性化にもつながった。